

本学の保育所実習の実施に関する実態調査(Ⅰ)  
－連続して4週間の保育所実習の学習効果に関する学生の意識調査－

佐野 友恵\*<sup>1</sup> 森本恵美子\*<sup>2</sup> 浅野 俊道\*<sup>3</sup>

**A Survey of the Four-consecutive-week Training Program  
at Child Care Facilities (Ⅰ)  
－ Students' Opinions concerning Its Effect －**

Tomoe Sano \*<sup>1</sup> Emiko Morimoto \*<sup>2</sup> Shundo Asano \*<sup>3</sup>

**Abstract**

As the regulations concerning training programs were revised in 2001, the training period for child-care workers was changed from two weeks to four weeks. The next year, our department decided to have a four-consecutive-week training program for child-care workers, while most of those programs at other schools consist of two separate two-week programs.

There were three reasons for the decision. First, since the foundation of our department, we have had much experience in four-consecutive-week training programs for kindergarten teachers. Second, the training programs at both kinds of child facilities: child-care facilities and kindergarten, should be the same in terms of period, because children are children whether they are at a child-care facility or a kindergarten. Third, the child-care facilities that accept our students as trainees agreed with our four-consecutive-week training program. In order to find the effects of this new training program for child-care workers, a survey was conducted to the students who participated in the program. What we found by the survey is as follows:

1. Many students felt first two weeks very hard, but second two weeks easier and more pleasant.
2. They found out what to study at college after completing the training program.
3. They developed good relationships with the children and child-care workers and understood the characters of children's behavior and the work of child-care

---

\* 1 さの ともえ：大阪国際大学短期大学部講師

\* 2 もりもと えみこ：大阪国際大学短期大学部教授

\* 3 あさの しゅんどう：大阪国際大学短期大学部教授 (2005.6.22受理)

workers.

4. They wanted to become child-care workers, understanding what was involved.
5. The four-consecutive-week training program was good for them.

### キーワード

連続して4週間の保育所実習 実習の学習効果 実習の課題発見教育観 就職指向性

## 1 調査目的

本学幼児教育科では昭和51年の開設以来29年間、保育士資格と併せて幼稚園教諭2種免許状も取得できる教育課程を用意してきた。幼稚園教諭の免許状取得のためには従来から幼稚園教育実習が4単位必修とされてきた。この幼稚園教育実習を実施するに当たり、本学では開設以来4単位分の実習4週間を連続して実施してきた。幼稚園教育実習は2週間に分割して2回実施する方法が広く実施されているが、本学では一層の教育効果を期待して分割実施の方法は採用してこなかった。

保育所実習の実施については、平成13年の厚生労働省告示第198号による改正にともない平成14年度から保育実習Ⅱの2単位が必修となった。その結果、保育所実習は保育実習Ⅰの保育所実習2単位と併せて4単位分の実習が必修となった。

4単位分が必修となった保育所実習の実施方法については次の3点を考慮して検討した。第一に、本学では開校以来、幼稚園実習で連続して4週間の実習の経験を積んできたこと。第二に、同年齢の幼児も保育されている保育所と幼稚園での実習の実施方法は同一であることが好ましいこと。第三に、実習受け入れ先に実習実施方法についての意見を聴取したところ、大半の実習園が4週間の連続実施に好意的姿勢を示したこと。これらのことを総合的に判断し、保育所実習は幼稚園実習と同様に連続して4週間で実施するとの結論に達した。そこで、平成14年の実施初年度から幼稚園教育実習同様に保育所実習は連続して4週間で実施し、今年で4年目を迎えることとなった<sup>1)</sup>。

今回の調査の目的は平成16年度卒業学生に対して保育所実習の実施方法とその学習効果に関するアンケート調査を実施し、本学幼児教育科が実施してきた連続して4週間の保育所実習の学生にとっての意義を明らかにすることである。なお、本調査は二部構成であり、第二次調査として実習受け入れ園の意識調査を別途実施する予定である。

## 2 調査方法

(1) 実施方法：幼児教育科を平成16年度に卒業する保育実習Ⅰ・Ⅱを受講した保育コース学生(第28期生)全員を調査対象とする悉皆調査を実施した。調査対象は保育士資格を取得した学生124名である<sup>2)</sup>。回答者数は118名(回収率95.2%)である。調査は学生各自に調査用紙を手渡し、無記名で回収した。調査用紙および単純集計結果は本文末尾に掲載した。

(2) 実施時期：卒業が確定した学生が集合した平成17年3月22日の卒業手続日に実施した。卒業手続日は学生として大学生生活最後の日に当たり、2年間の実習について回顧し、

アンケートに回答する機会としては適切である。

### 3 学生に対するアンケート調査結果とその考察

#### 1. 連続して4週間の保育所実習の苦楽の状態

図1は、連続して4週間の保育所実習の苦楽の状態の変化について問うた問1の結果である。初めから最後まで楽しかったとする学生は19.5%にすぎないが、前半2週間は辛かったが、後半の2週間になると楽しくなったとする学生が半数以上の53.4%に達している。実習を終わるに当たって楽しかったと感じる学生は、実に72.9%に達する。この逆に、初めから最後まで辛く感じた学生11.0%と後半になると辛かったと感じた学生11.9%を併せて22.9%が実習を終わるに当たって辛かったと感じている。

普通に考えれば4週間は2週間と比べ長くて大変なので辛いと思う学生が多くなると考えがちであるが、実際にはそうではなく2週間までが辛く、2週間をすぎると実習先の保育所に慣れ、余裕が生まれ急激に楽しく感じられるようになるというのが実際の状態である。

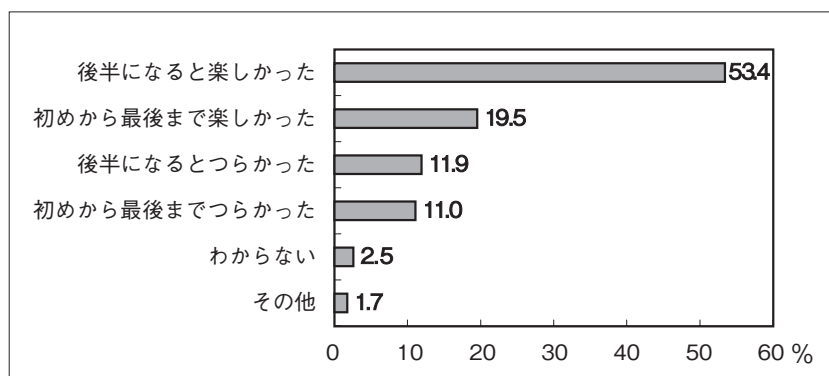


図1 連続して4週間の保育所実習の苦楽

「連続して4週間の保育所実習は心身ともに辛かった」と言う学生の多数が同時に自由記述で「2週間を乗り切ると実習が楽しくなった」「余裕をもってじっくり順序立てて先生の保育の仕方などを学べた」「保育所に慣れ、仕事内容や保育の1日の流れがよく分かった」「2週間では実習先になれるのに精一杯で終わってしまう」「2週間では中途半端で終わってしまう」と言う事実は、こうした時間の流れの中での<辛いから楽しい>への自分の実習に対する感じ方の変化を表している。

「4週間の実習の苦楽」とその後の実習課題との関連を見ると、「初めから最後まで楽しかった」と回答した学生23名中22名(95.7%)、「後半になると楽しかった」と回答した学生63名中57名(90.5%)、「後半になると辛かった」と回答した学生14名中13名(92.9%)、「初めから最後まで辛かった」と回答した学生13名中10名(76.9%)が、それぞれ「もっと勉強しなくてはと思った」と回答している。連続して4週間の実習の苦楽にかかわらず多くの学生が今後の学習の課題を見出している。

4週間の実習の苦楽と卒業後の進路の関連をみると、「初めから最後まで楽しかった」と回答した学生23名中9名(39.1%)、「後半になると楽しかった」学生63名中32名(50.8%)、「後半になると辛かった」学生14名中4名(28.6%)、「初めから最後まで辛かった」と回答した学生13名中4名(30.8%)が、それぞれ保育所に就職している。実習が辛かったからといって、必ずしも保育所への就職志向がなくなったわけではない。

## 2. 連続して4週間の保育所実習と実習中の「健康の維持」

図2は、連続して4週間の保育所実習と健康の維持の関係について問うた問2の結果である。「健康の維持と4週間の期間とは関係はない」とする学生は16.1%、「どちらとも言えない」とする学生は18.6%、「健康の維持が特別に難しいということはない」とする学生27.1%であり、これらの61.8%に達する学生は連続して4週間の保育所実習が健康の維持を困難にする特別の原因にはならないとしている。これに対し、「4週間は長くて途中で疲れる」とする学生は26.3%にとどまる。保育所実習は実施時期が11月の4週間であり、本格的な冬の寒さを迎える前であり、比較的気候に恵まれていることも健康の維持がそれほど問題にならない一因であろう。

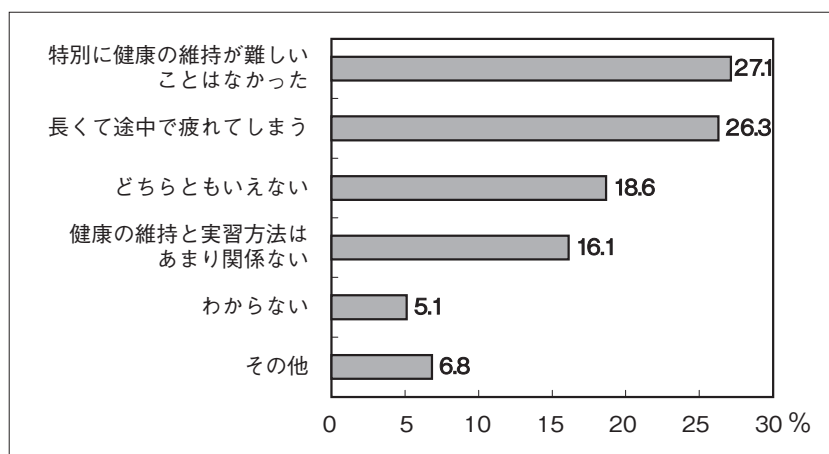


図2 連続して4週間の保育所実習の健康維持

表1は、健康の維持と連続して4週間の実習の苦楽との関連を見たものである。「特別に健康の維持が難しいことはなかった」と回答した学生32名中、「初めから最後まで楽しかった」と回答した学生は10名(31.3%)、「後半になると楽しかった」と回答した学生は18名(56.3%)であり、楽しかったと回答する学生は多い。「4週間の実習は長くて疲れる」と回答した学生31名中、「初めから最後まで楽しかった」と回答した学生は2名(2.5%)、「後半になると楽しかった」と回答した学生は15名(48.4%)であり、逆に「後半になると辛かった」と回答した学生は7名(22.6%)、「初めから最後まで辛かった」と回答した学生は6名(19.4%)にすぎない。「実際保育士になったら健康維持はずっと必要だと思う」「健康の維持は個人の責任」など、4週間の実習を就職した時の心の準備ができると記述

本学の保育所実習の実施に関する実態調査（Ⅰ）

した学生もいた。

表 1 連続して4週間の保育所実習の健康の維持と苦楽

		連続して4週間の実習の苦楽					合計
		初めから最後まで楽しかった	後半になると楽しかった	後半になるとつらかった	初めから最後までつらかった	わからない・その他	
健康の維持	特に健康の維持が難しいことはなかった	10(31.3%)	18(56.3%)	2(6.3%)	1(3.1%)	1(3.1%)	32(100.1%)
	4週間は長くて途中で疲れる	2(6.5%)	15(48.4%)	7(22.6%)	6(19.4%)	1(3.1%)	31(100.0%)
	どちらともいえない	3(13.6%)	11(50.0%)	2(9.1%)	5(22.7%)	1(4.5%)	22(99.9%)
	実習方法とはあまり関係ない	8(42.1%)	7(36.8%)	2(10.5%)	1(5.3%)	1(5.3%)	10(100.0%)

「長くて途中で疲れる」と回答した学生のうち後半の2週間を「楽しかった」と回答した学生は17名に達する。自由記述の中にも「しんどかったが、4週間あったので子どものことがわかった」「保育士の仕事が理解できるようになった」「やり遂げて自信がついた」などがみられた。また「長くて途中で疲れる」と回答した学生のうち後半の2週間が「辛かった」と回答した学生が13名いる。この13名中4名は保育所に就職している。

### 3. 実習の実施方法と「学校の授業」

連続して4週間の保育所実習では勉強不足で困ることが多い。2週間ずつに分けて4週間の保育所実習にした方が学校でいろいろ勉強してから実習に行くことができ、充実した実習になる。以上は、学校における学習が実習を充実させるとする捉え方である。2週間ずつに分けて4週間の保育所実習実施を肯定する学生は、この捉え方をとする。この捉え方の背後には、学校で十分に学習しその成果を実習で示すという実習の完成教育観が控えている。

連続して4週間の保育所実習は、一度しか実習しないけれど保育所のことがよく分かり、自分の学習課題を認識し、実習以後の授業内容がよく理解できるようになる。これは、実習による保育所理解が授業内容の理解を促進するという捉え方である。連続して4週間の保育所実習実施を肯定する学生は、この捉え方をとする。この捉え方の背後には、実習によって今後の学習課題を明確にするという実習の課題発見教育観<sup>3)</sup>が控えている。図3から分かるように前者の捉え方をとする学生は34.7%で、後者の捉え方をとする学生は42.4%である。

実習論の歴史の示すところによれば、戦後の実習論の大転換は師範教育に見られた極端なまでの実習の完成教育観の廃棄と課題発見教育観の導入であった。実習は一人前の保育者を作り上げるためではなく、一人前の保育者になるための学習に必要な対象理解と課題の発見のために行われるとする考え方の導入が戦後の養成教育の大転換であった。

この意味で、本学の学生が連続して4週間の保育所実習を受けることによって、結果的

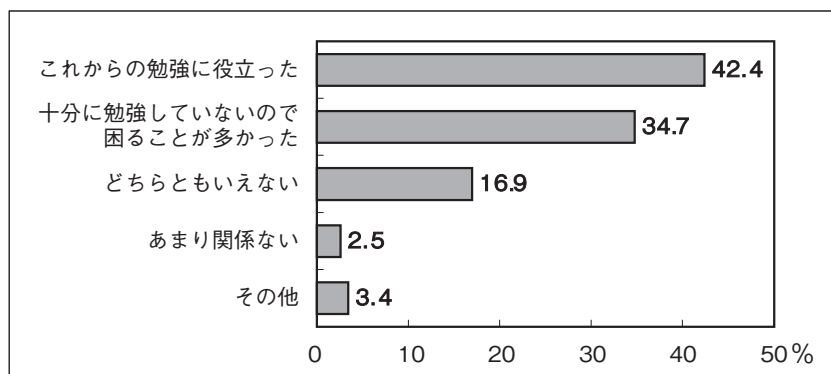


図3 連続して4週間の保育所実習と学校の授業

に実習の課題発見教育観を42.4%の学生が支持することの意義は少なくない。

もっとも、これはあくまでも考え方の差異を示すものであって、どちらの捉え方をしても現実的な学習課題を見出す学生は多い。十分に勉強していないので困る事が多かったと回答した完成教育観で実習を捉えた学生41名中36名(87.8%)、これからの勉強に役立ったと回答した課題発見教育観で実習を捉えた学生50名中48名(96.0%)、どちらともいえない・その他と回答した学生24名中19名(79.2%)が、学習課題を見出している。しいて言えば、今後の学習課題の発見としての実習の意義を学生に認識させることが今後の課題となる。

#### 4. 実習の実施方法と「子どもの発達段階の理解」

2週間ずつに分けて4週間の保育所実習では、同じ保育所で実習する場合が多く、子どもの発達についてよく理解できることが利点として挙げられる。それでは、連続して4週間の保育所実習では、子どもの発達段階の理解についてはどのように考えているのだろうか。図4から明らかになるように、連続して4週間の保育所実習が子どもの発達段階についてよく理解できるとする学生は76.3%に達し、2週間ずつに分けて4週間の保育所実習が発達段階の理解に役立つとする学生は6.8%に過ぎない。学生は、連続して4週間の保育所実習の方が子どもの発達段階の理解が深まると考えている。

これは、実習期間が4週間ということもあって、実習先保育所で各年齢のクラスに時間的に余裕をもって実習経験を積んだことによるのであろう。

また、図5から明らかになるように、ある程度は子どもを理解し親しくなれたとする学生と十分に理解し親しくなれたとする学生は94.0%に達している。子どもを理解し親しくなれたという実感が、子どもの発達段階の理解の基礎をなしているのだろう。

本学の保育所実習の実施に関する実態調査（I）

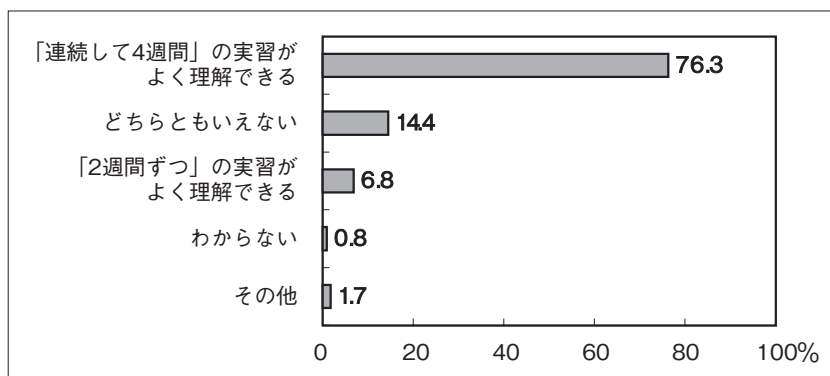


図4 発達段階の理解

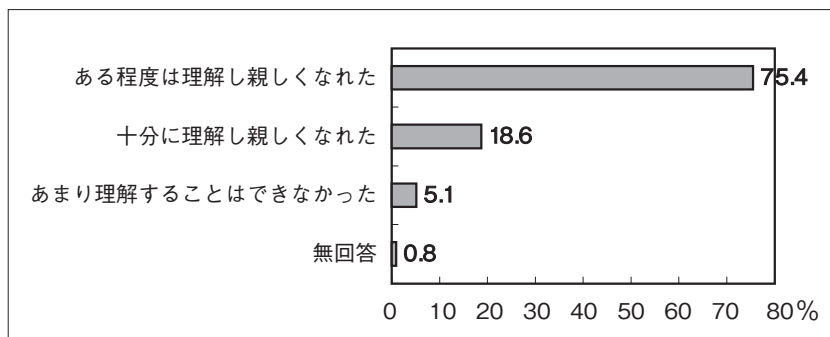


図5 連続して4週間の保育所実習と子どもの理解

### 5. 学習課題の発見

図6は、保育所実習の主要な目的である学習課題の発見について直接問うた問6の結果である。学生の34.7%は実習の完成教育観につながる実習観をもっているが、学習課題の発見という現実的な問題に対しては図6から明らかなように、89.0%の学生がもっと勉強しなければならないと思うようになり、学習課題を各人なりに見いだしている。実習を終えてからの学生の学習態度は明らかに変化し、積極的に勉学に励むようになる。

ただし、連続して4週間の保育所実習を受けたにも関わらず、学習課題の発見に関して実習受講前となら変わらなかったとする学生が10名(8.5%)いる。この10名中5名の学生が子どもの発達段階の理解に関しては連続して4週間の方が理解できると回答している。連続して4週間の実習は、学ぶことが多いという実感を持っていることが分かる。さらに、この10名中8名が幼稚園や保育所に就職している。このことから、学習課題の発見に関して実習受講前となら変わらなかったとする10名の中には、保育者への就職を目指して実習以前から高い学習意欲を有しており実習後もその意欲に変化がなかったという意味で同項目を選択した学生がいることが予想される。

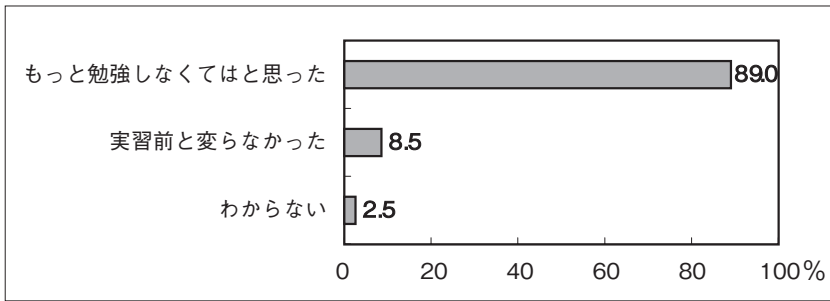


図6 実習後の学習課題

大学における保育士養成教育の成果を一層確実なものにするためには、なるべく早い時期から学習課題を自覚し積極的に勉学に取り組むようになる機会の提供が必要である。そのためには早い時期からの実習実施が是非とも必要となる。本学幼児教育科の音楽コースでは1回生の5月に音楽療法実習を受講する学生がいる。これらの学生は早くから実習を通して学習課題を発見することは明らかであり、積極的学習態度への転換は目を見張るものがある。ただし、これができるのは、音楽コースの学生定員が25名と少数である上、選択科目であることもあって受講生が少なく、実習先との事前打ち合わせ、事前の学生指導等を一人一人に即して丁寧に行うことができるからに他ならない。定員が130名に達する大所帯の保育コースではそこまで配慮することは困難であり、保育所実習を現在の実施時期の11月より早く実施することは難しい。

## 6. 保育士の仕事の理解

図7は、保育士の仕事の理解について直接問うた問7の結果である。少しは理解できたとする学生53.4%とよく理解できたとする学生43.2%の計96.6%の学生が、保育士の仕事についての理解に肯定的な回答をしている。実際にどの程度理解できているのかについては、この回答からは分からない。理解に関する要求水準が高い学生は、要求水準が低い学生よりは理解の程度を低く表現するからである。この回答から分かるのは、実習前よりも保育

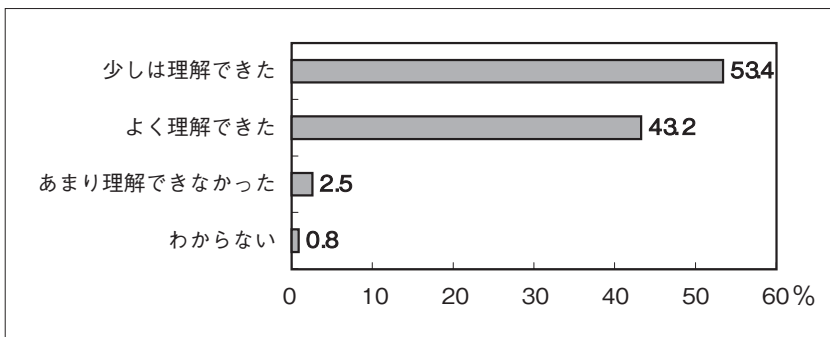


図7 保育士の仕事の理解



士の仕事に関してより多くのことを理解したと学生が認識している事実である。その意味では分からないと回答した1名(0.8%)を除いては、あまり理解できなかったと回答した3名(2.5%)の学生を含めてほぼ全員が理解の程度を高めている。

## 7. 保育士への就職志向性

図8は、実習を受けた結果としての保育士への就職志向性について問うた問8の結果である。保育士への就職志向性を示したのは、「なりたと思った」学生46.6%と「なりたと思ったけれど自分には無理ではないか」と実現可能性についてまで考えを巡らせた学生43.2%の計89.8%の学生である。保育士への就職志向性は極めて高い。

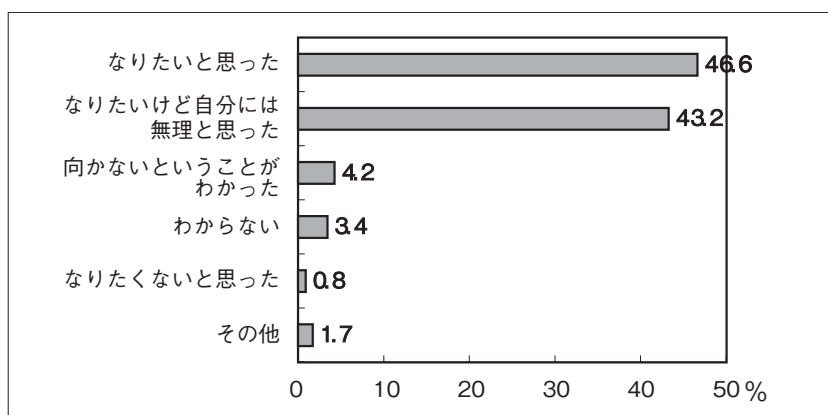


図8 保育士への就職志向性

保育士に向かないことが分かったと回答した4.2%の学生については、実習によって自分の向き不向きを具体的に検討することができたわけであるから実習実施上の問題とはならないだろう。問題になるのは、保育士になりたくないと回答した学生1名(0.8%)である。実習を受けたことによって保育士になりたくないと思うようになったのは問題である。とはいえ、この学生は問6について「もっと勉強しなければいけないと思うようになった」を選択しており、保育士にはなりたくはないが、この実習を通して何らかの課題意識を持ったという点では実習実施上の問題とはならない。

また、実習の際に「なりたと思ったけれど自分には無理だと思った」と答えたからといって、実際に就職ができなかった訳ではない。表2は学生の実際の進路と保育士への就職志向性の関連を示したものである。保育士になりたいと回答した学生55名中保育所に就職した学生は24名(43.6%)、保育士になりたいと思ったけれど自分には無理だと回答した学生51名中28名(52.8%)は保育所へ就職している。保育士になりたいと回答した学生よりもなりたけれど無理だと回答した学生の方が実際の保育所への就職率は高くなっている。すなわち「なりたと思ったけれど自分には無理だと思った」を選択した学生の中には、保育所への就職を強く意識しているが故に、実習時の自身の能力を冷静に判断して回

答している姿が窺える。それだけ具体的な問題意識をもって実習に臨んでいたと言えるだろう。

表2 実際の進路と保育士への就職志向性

		なりた いと思 った	なりた いと思 ったけ れど自 分には 無理と 思っ た	なりた くと思 わない と思っ た	向か ない とい うこ とが 分か った	わか らな い	その他	合 計
進 路	保育所	24(43.6%)	28(54.9%)	0	0	1(25.0%)	0	53(4.9%)
	幼稚園	20(36.4%)	7(13.7%)	0	2(40.0%)	2(50.0%)	1(50.0%)	32(7.1%)
	社会体育施設	0	1(2.0%)	0	0	0	0	1(0.8%)
	一般企業	3(5.5%)	2(3.9%)	0	1(20.0%)	0	1(50.0%)	7(5.9%)
	進学	1(1.8%)	1(2.0%)	0	0	1(25.5%)	0	3(2.5%)
	就職活動中	6(10.9%)	7(13.7%)	1(100.0%)	1(20.0%)	0	0	15(2.7%)
	就職しない	0	3(5.9%)	0	1(20.0%)	0	0	4(3.4%)
	その他	1(1.8%)	2(3.9%)	0	0	0	0	3(2.5%)
合計		55(100.0%)	51(100.0%)	1(100.0%)	5(100.0%)	4(100.0%)	2(100.0%)	118(100.0%)

### 8. 連続して4週間の保育所実習に対する実習園の発言内容

図9は、連続して4週間の保育所実習に対する実習園からの発言内容について問うた問9の結果である。74.6%の学生が、実習先から「珍しいねと感心して言われた」と回答している。保育所実習は、平成13年までは2週間で実施されていたし、平成14年以降も2週間ずつに分けて4週間の保育所実習として実施する養成校が多いことから、実習受け入れ側の保育所の職員が連続して4週間の保育所実習を「珍しいね」と言ったとしても全く当然のことである。現に実習を依頼する私たちが連続して4週間の保育所実習受け入れについての見解を聞くために訪問した際にも「珍しい」と言う言葉はよく聞かされた。この発言は保育士養成の歴史と現状を反映した当然のものであるので特に問題にすることではない。問題は、その珍しいという表現を否定的文脈で言うか、肯定的文脈で言うかの差異である。珍しいねと言う言葉を感心したことの肯定的表現であると74.6%に達する学生が受けとめている。また、現状ではレアケースにもかかわらず、連続して4週間の保育所実習に理解を示し、「4週間も実習するのだから、じっくり勉強をなさい」と学生を力づけてくれた実習受け入れ先が24.6%に達している。

「変わっているねといやみたらしく言われた」学生11.0%、「2週間ずつに分けて保育所実習をやったほうが勉強になると言われた」学生1.7%、「1回生では無理ではないかと言われた」学生3.4%は、連続して4週間の保育所実習に対して否定的な発言を受けている。この点に関しては本学の保育士養成に携わる私たちに責任がある。歴史的な変遷を経てきている実習論の変換が容易に起こるとは思えないが、一層の理解を図る責任は免れないからである。学生に対しては保育所実習の実施期間の変遷とその意義について事前に一層よ

本学の保育所実習の実施に関する実態調査（Ⅰ）

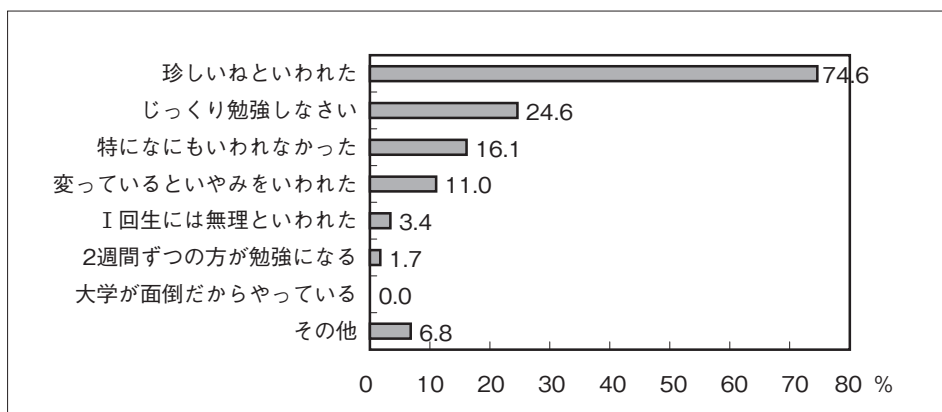


図9 4週間の実習に対する園の発言内容

く説明する必要がある。

表3は実習園の発言内容と健康の維持の関連を示すものである。連続して4週間の実習に対して否定的な発言を受けた学生の多くが連続して4週間の実習を「長くて疲れる」と感じていることが分かる。

本調査は学生に対する意識調査であり、これ以上の考察は難しいが、連続して4週間の実習に対する実習園側の受け取り方に関しては、本研究に引き続き実施する実習園に対する調査を通して明らかにしていきたい。

表3 連続して4週間の実習に対する実習園の発言内容と健康の維持

		健康の維持に問題がない	長くて途中で疲れる	どちらとも言えない・分からない・その他	合計
肯定的発言	珍しいねと感心された	43(49%)	21(24%)	24(27%)	88(100%)
	じっくり勉強しなさいと言われた	15(51%)	8(28%)	6(21%)	29(100%)
否定的発言	一回生には無理と言われた	1(25%)	3(75%)	0(0%)	4(100%)
	変わっていると嫌味を言われた	3(23%)	9(69%)	1(8%)	13(100%)

### 9. 連続して4週間の保育所実習の学習効果

図10は、連続して4週間の保育所実習が途中の2週間で終了になっていたら、今ならどのように思うかと問うた問10の結果である。これは仮定の間であり、また複数回答を可としている。この仮定の間は、連続して4週間の保育所実習の学習効果について学生がどのように考えているのかを示している。

「せっかく園児や保育所に慣れたのに、これからというときに終わりがっかりするだろう」との回答がもっとも多く76.3%に達する。多くの学生が実習2週間目までは慣れるの

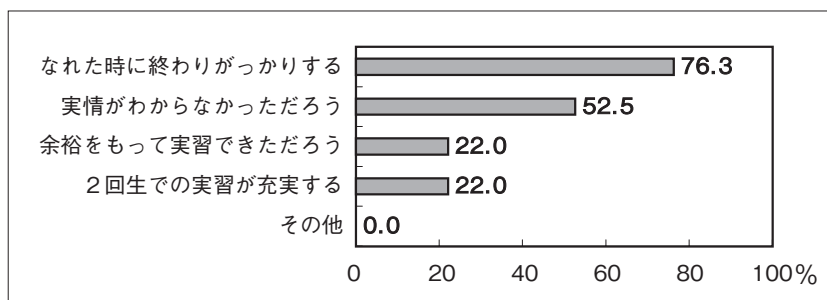


図10 保育所実習の学習効果

に精一杯で、3週間目から実質的な保育実習が始まると思っていることをこれは示している。さらに、2週間で終わってしまえば、その後学んだ保育の実状について学べなかっただろうと思い、後半の3週間目以降に学んだ学習内容に52.5%の学生が言及している。

これとは逆に、22.0%の学生が2週間で終了して、再度2回生になって2週間の実習に行けば、もっと充実した実習ができたと考えている。連続して4週間の保育所実習では充実した実習にならなかったと考えている。さらに、22.0%の学生が連続して実習しなければもっと余裕をもって実習に取り組めたと思っていることを示し、連続して4週間の保育所実習では余裕が持てないと考えている。この2つの選択肢を共に回答した学生7名は連続して4週間の保育所実習に否定的であるが、問11-1「どちらの実習方法を選ぶのか」という問に対して、連続して4週間の実習を選択する学生が4名にのぼる。

実際に経験した実習方法と経験したことのない実習方法の比較であるから、自ずと限界があるが、どのような実施方法であっても、最初の2週間の実習は余裕がなく充実したものにはならないと考えている学生が大半である。

#### 10-1. 「連続して4週間の保育所実習」と「2週間ずつに分けて4週間の保育所実習」の選択

図11は、保育所実習の実施方法について問うた問11-1の結果である。この問による選択は、経験したことと未経験のことに関する選択であり、回答結果を同列に扱うことはできない。従って、この回答結果から分かることは、学生が自分たちが経験した連続して4週間の保育所実習を受け入れるか否かについてである。

連続して4週間の保育所実習を受け入れる学生は、連続して4週間の保育所実習を選択すると回答した学生52.5%である。

連続して4週間の保育所実習の受け入れを否定する学生は、2週間ずつに分けて4週間の保育所実習を選択すると回答した学生26.3%である。

いずれを受け入れるかについての態度表明を避けた学生は、どちらでもよいとした学生16.9%とわからないと回答した学生4.2%の計21.1%に達する。経験したことと経験したことのないことを選択についての問であり、わからないとの回答やどちらでもよいとする回答が増えるのはやむを得ない。連続して4週間の保育所実習を受け入れる学生は過半数を超

本学の保育所実習の実施に関する実態調査（Ⅰ）

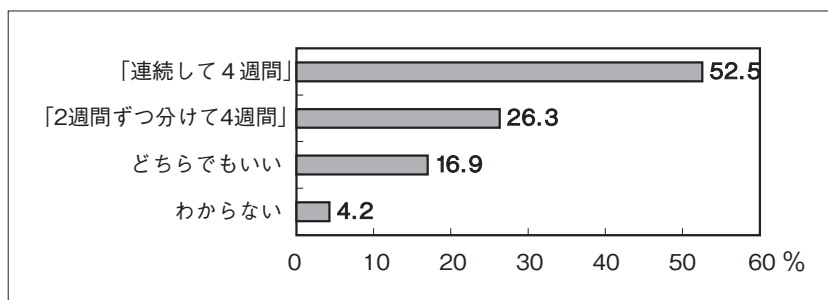


図11 保育実習の実施方法

えるが、これまでの分析結果を考えると思いのほか少ない。

表4は保育所実習の実施方法と健康の維持とをクロスした結果である。「連続して4週間」を選択した学生62名中、「特別に健康維持が難しいことではなかった」と回答した学生25名（40.3%）、「長くて途中で疲れてしまう」と回答した学生は5名（8.1%）であった。

「2週間ずつ分けて4週間」の実習を選択した学生31名中20名（64.5%）は4週間の保育所実習は「長くて途中で疲れる」と回答している。しかし「2週間で保育所実習が終了していたらどう思うか」の問に対し、この20名中11名は「せっかく園に慣れたのにこれからという時に終わりがっかりするだろう」、7名は「保育の実情がわからないうちに終わっていたかもしれない」と回答している。体力的には疲れるとしながら、連続した4週間の実習を内容面からは肯定している。

表4 実習の実施方法と健康の維持

実施方法	4週間の実習と健康の維持	4週間の実習と健康の維持					合計
		特別に健康の維持が難しいことはなかった	4週間は長くて途中で疲れる	どちらともいえない	実習方法とはあまり関係ない	わからない・その他	
連続して4週間		25(40.3%)	5(8.1%)	11(17.7%)	10(16.1%)	11(17.8%)	62(100.0%)
2週間ずつに分けて4週間		3(9.7%)	20(64.5%)	3(9.7%)	4(12.9%)	1(3.2%)	31(100.0%)
どちらでもいい		3(15.0%)	5(25.0%)	6(30.0%)	4(20.0%)	2(10.0%)	20(100.0%)

### 10-2. 連続して4週間の保育所実習の選択理由

図12は、連続して4週間の保育所実習を選択した62名の学生があげた理由である。4週間の実習で園児と保育所に慣れじつくりと実習できるからとする理由をあげる学生は、88.7%に達する。連続して4週間の保育所実習の選択理由の最大のものである。その他には、4週間の長い実習をやりきったことが自信につながることを理由にあげる学生が45.2%、実習を課題発見教育観で捉え早くからの実習が勉強になるとする理由をあげる学生が22.6%になる。

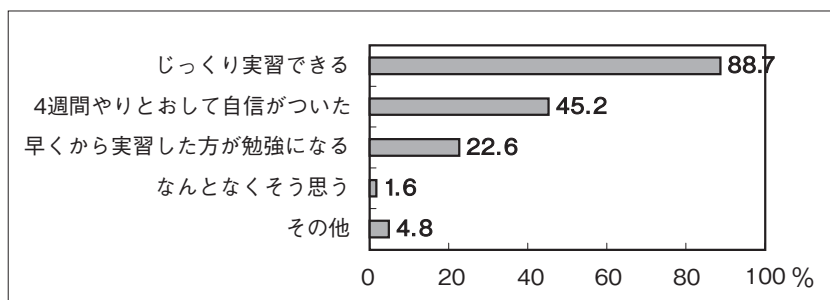


図12 連続して4週間の実習の選択理由

### 10-3. 2週間ずつに分けて4週間の保育所実習の選択理由

図13は、2週間ずつに分けて4週間の保育所実習を選択し、連続して4週間の保育所実習を選択しなかった31名の学生があげた理由である。

もっとも多いのは、最初の実習で気づいた課題に取り組めるという理由であり、61.3%に達する。事前の勉強が不十分なまま長い実習に行くのはよくないという理由をあげる学生は35.5%である。その他の理由をあげる学生は25.8%(8名)に達する。

8名の学生の挙げる「その他」の理由の内訳は、長いと体力的に疲れる(4名)、多くの保育所を経験できる(3名)、4週間は経験したので2週間ずつの実習を経験してみたい(1名)である。

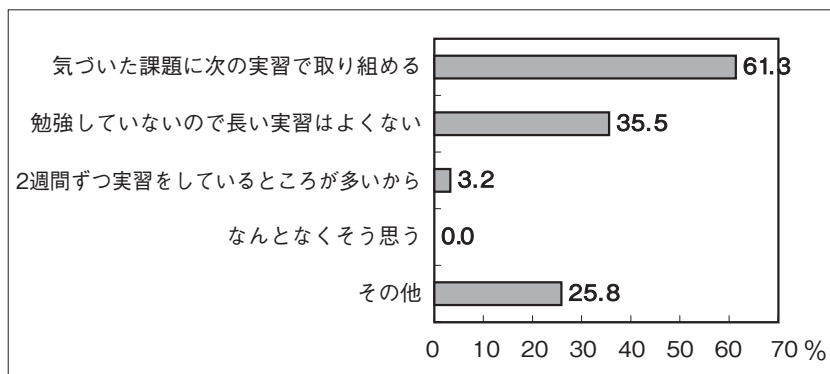


図13 2週間ずつに分けて4週間の実習の選択理由

## 11. 連続して4週間の保育所実習と2週間ずつに分けて4週間の保育所実習とに関する自由記述の分析結果

表5は、問13の連続して4週間の保育所実習と2週間ずつに分けて4週間の保育所実習とに対する意見の自由記述の分析結果である。自由記述欄に意見を記入した学生は、118名中97名で82.2%の高率に達した。それぞれの自由記述文の中から、連続して4週間の保

本学の保育所実習の実施に関する実態調査（Ⅰ）

表5 自由記述の分析

内 容		件 数	%	
連続して 4週間	肯定	子どもと仲よくなれた	20	12.5
		子どもとじっくりと接することができ、理解が深まった	6	3.8
		やり遂げたという達成感と充実感がある	6	3.8
		余裕をもってじっくり順序だてて先生の対応などを学べる	7	4.3
		保育所に慣れ、仕事内容や保育の1日の流れがよくわかった	21	13.1
		就職活動に有利（時期・経験）	2	1.3
		多くのクラスに入り、年齢別の発達段階がよくわかった	6	3.8
		2週間を乗り切ると実習が楽しく短く感じる	3	1.9
		自信がもて、精神的に強くなった	2	1.3
		4週間の実習だと思いと真剣に全力投球した	2	1.3
	一度に実習が終わり、準備も一度で済むので楽だ	2	1.3	
	長期の実習だと自分の適性がよくわかる	1	0.6	
	否定	心身ともにつらかった	17	10.6
		子どもと仲よくなれない	1	0.6
1回生で保育全般の知識がなく、長期の実習は不安であった		6	3.8	
2週間ずつに分けて 4週間	肯定	複数の保育所を体験できてよい	12	7.5
		複数の園を知ることができ、就職活動に有利	3	1.9
		1回目の実習課題を次に活かし、より多くの成果を得られる	9	5.6
		自分の成長を確認できる	1	0.6
		子どもの1年後を見ることができ	1	0.6
		不満や戸惑いを分散し、取り組みやすい	2	1.3
	否定	子どもと仲よくなれない	1	0.6
		就職活動に不利（時期）	1	0.6
		2週間では園に慣れるのに精一杯	6	3.8
		2週間では中途半端で終わってしまう	10	6.3
	2度の実習はめんどう	3	1.9	
どちらともいえない		9	5.6	
合計		160	100.3	

育所実習に対する肯定的・否定的記述、2週間ずつに分けて4週間の保育所実習に対する肯定的・否定的記述を全て抜き出し、表にまとめたものである。自由記述であるから問11-2、問11-3の選択肢のある問に対する回答よりも多様な記述内容が見られる。問11-2の回答とは異なった連続して4週間の保育所実習に対する肯定的記述はいずれも少数ではあるが、「時期的にも経験的にも就職活動に有利である」「4週間だと思いと真剣に全力投球した」「一度に実習が終わり、準備も一度で済むので楽だ」「実習が長期だと自分の適性がよく分かる」というものである。

問11-3の問の回答とは異なる2週間ずつに分けて4週間の保育所実習に対する肯定的記述は「複数の保育所を経験できてよい」「複数の保育所を知ることができ、就職活動に有利」「自分の成長を確認できる」「子どもの1年後を見ることができ」である。2週間ずつに分けて4週間の保育所実習は学生が実際に経験していないので自由記述では、肯定するにしろ否定するにしろ意見の種類が少なく一般的なものとどまり、回答件数が少ない。また、学習成果に関することを除けば自由記述では、主に就職・自己成長・園児の成

長に関する意見が少数ながら追加されるにとどまる。

#### 4 まとめ

以上の考察から連続して4週間の保育所実習について学生に対する意識調査から明らかになったことを箇条書きにすれば以下ようになる。

- 1) 多くの学生が前半の2週間は実習を辛いと感じているが、後半の2週間は実習に慣れて楽しく充実した実習をできたと感じている。
- 2) 多くの学生が今後の学習課題を発見している。
- 3) 多くの学生が子どもと良好な関係を築き、子どもの発達段階や保育士の職務について理解を深めている。
- 4) 多くの学生が保育士の仕事内容を理解した上で、保育士への就職を希望するようになる。
- 5) 連続して4週間の保育所実習は、学習効果も高く学生に肯定的に捉えられている。

今後更に、これらのことを踏まえて、連続して4週間の保育所実習に対する実習受け入れ園への調査を実施し検討を加えたい。

#### 注

- <sup>1)</sup> 保育所実習は1回生時11月の4週間、施設実習は1回生時2月から3月の間の2週間と見学実習を1回生時6月と10月に各1日、幼稚園実習は2回生時6月の4週間、それぞれ実施している。
- <sup>2)</sup> 保育コースの学生総数129名中124名(96.1%)が保育士資格を取得している。なお、125名(96.9%)が幼稚園教諭免許を取得し、免許資格の両方を取得した者は123名(95.3%)に達している。免許資格を取得しないで卒業した者は3名のみである。
- <sup>3)</sup> 課題発見教育観については、浅野俊道、川口明憲、徳本達夫「実習理論の再検討(1)―実習理論のパラダイム転換―」『日本保育学会第36回大会研究論文集』588-589頁、1983年を参照のこと。なお、The sub-committee of the standards and surveys committee of the American association of teachers colleges (1948). *School and Community Laboratory Experiences in Teacher Education*: Harvard Universityは戦後日本の実習論に多大な影響を与えた。この報告書が発刊された翌年の1949年には、教育実習を存在理由としていた師範学校の附属学校が刊行していた附属学校年鑑にこの報告書の抄訳が掲載されている。この報告書では実習を教職実地経験(Professional Laboratory Experiences)と捉え、その内容を9原則として提示した(pp.15-37)。実習を課題の発見として捉える考え方は第1原則において展開されている。当時、この報告書を出した基準調査検討部会は全米教員養成協議会(A.A.T.C.)の会員校に対してアンケート調査を実施し、この9原則のそれぞれに対する賛否を問うている。第1原則に対する回答は、賛成93、反対0、条件付き賛成25であった。

#### 参考文献

- Dewey, J. *The Relation of Theory to Practice in Education*: The National Society for the Scientific Study of Education. 1904
- 教育実習指導研究会編『教育実習指導資料』表現社、1969年
- 日本教育学会教師教育に関する研究委員会編『教師教育の課題』明治図書、1983年
- 荘司雅子監修『幼児教育実習の探求』創言社、1983年



## 本学の保育所実習の実施に関する実態調査（Ⅰ）

### 保育所実習の実施方法についてのアンケート

皆さんの学年から厚生労働省の規則が改正され、保育所実習の期間が2週間から4週間に延長されました。本学では皆さんが1回生時11月に実習したように「連続して4週間」で実施しました。ほかにも、1回生後期11月と2回生後期11月との「2週間ずつに分割して4週間」で実施する方法もあります。

皆さんの後輩の保育所実習の実施方法を検討する参考資料にいたしますので、保育所実習の実施方法に関して皆さんの貴重な意見をぜひお聞かせください。よろしく願いいたします。

- 回答方法 1 当てはまる番号に○印をつけてください。  
2 回答の数はそれぞれの指示に従ってください。

- 1 「連続して4週間」の保育実習を楽しく受けることができましたか。次の中から1つ選んで回答してください。
  - (1) 初めから最後まで楽しかった。 (23)
  - (2) 初めはつらかったけれど、後半になると楽しかった。 (63)
  - (3) 初めは楽しかったけれど、後半になるとつらかった。 (14)
  - (4) 初めから最後までつらかった。 (13)
  - (5) わからない。 (3)
  - (6) その他 ( ) (2)
  
- 2 「連続して4週間」の保育所実習と実習中の「健康の維持」について、次の中から1つ選んで回答してください。
  - (1) 「連続して4週間」の保育所実習だからといって、特別に「健康の維持」が難しいということとはなかった。 (32)
  - (2) 「連続して4週間」の保育所実習は長くて途中で疲れてしまうので、「2週間ずつに割って4週間」の実習にした方がいい。 (31)
  - (3) どちらとも言えない。 (22)
  - (4) 「健康の維持」と実習の実施方法とはあまり関係がないと思う。 (19)
  - (5) わからない。 (8)
  - (6) その他 ( ) (6)
  
- 3 「連続して4週間」の保育所実習と「学校の授業」について、次の中から1つ選んで回答してください。

- (1) 「連続して4週間」の保育所実習では、1回生で実習に行くので十分に勉強していないので困ることが多かった。「2週間ずつに分割して4週間」の保育所実習にすれば、いろいろ授業を受けて2回生の後期にまた実習できるので実習が充実するので、「2週間ずつに分割して4週間」の保育所実習にした方がいい。(50)
- (2) 「連続して4週間」の保育所実習では1回生の時しか保育所実習機会がないけれど、保育所のことがよくわかり、授業で話されていることがよくわかるようになったり、これから勉強しなければならないことがわかるようになったので、今のまま「連続して4週間」の実習でいい。(41)
- (3) どちらとも言えない。(20)
- (4) 実習の実施方法と「学校の授業」とはあまり関係がないと思う。(3)
- (5) わからない。
- (6) その他 ( ) (4)
- 4 「連続して4週間」の保育所実習と「子どもの年齢別発達段階」の理解について、次の中から1つ選んで回答してください。
- (1) 「連続して4週間」の保育所実習では各年齢のクラスで実習したり、各年齢の子どもと接する機会が十分あったので、子どもの年齢別の発達段階がよくわかった。(90)
- (2) 「2週間ずつに分割して4週間」の保育所実習であれば、1年後に一人一人の子どもの発達が観察できるので、「子どもの年齢別発達段階」の理解には「2週間ずつに分割して4週間」の保育所実習の方がいいと思う。(17)
- (3) どちらとも言えない。(8)
- (4) わからない。(1)
- (5) その他 ( ) (2)
- 5 あなたは保育所実習で子どもを理解し、親しくなることができましたか。次の中から1つ選んで回答してください。
- (1) 子どもを十分に理解し親しくなれた。(89)
- (2) ある程度は理解し親しくなれた。(22)
- (3) あまり理解することはできなかった。(6)
- (4) 全く理解することができず親しくもなれなかった。(0)
- (5) どちらともいえない。(0)
- (6) その他 ( ) (0)

本学の保育所実習の実施に関する実態調査（Ⅰ）

6 あなたは保育所実習を受けて、自分のその後の学習課題を見つけることができましたか。次の中から1つ選んで回答してください。

- (1) もっと勉強しなければいけないと思うようになった。 (105)
- (2) 実習前とあまり変わらなかった。 (10)
- (3) わからない。 (3)
- (4) その他 ( ) (1)

7 あなたは保育所実習を受けて、保育士の仕事内容を理解しましたか。次の中から1つ選んで回答してください。

- (1) よく理解できた。 (51)
- (2) 少しは理解できた。 (63)
- (3) あまり理解できなかった。 (3)
- (4) 実習前とあまり変わらなかった。 (0)
- (5) わからない。 (1)
- (6) その他 ( ) (2)

8 あなたは保育所実習を受けて、自分が保育士になりたいと思いましたか。次の中から1つ選んで回答してください。

- (1) 保育士になりたいと思った。 (55)
- (2) 保育士になりたいと思ったけれど、自分には無理ではないかと思った。 (51)
- (3) 保育士にはなりたくないと思った。 (1)
- (4) 保育士には向かないということがわかった。 (5)
- (5) なんとも思わなかった。 (0)
- (6) わからない。 (4)
- (7) その他 ( ) (2)

9 「連続して4週間」の保育所実習について実習先から言われたことに関して、当てはまるものすべてを次の中から回答してください。

- (1) 4週間の保育所実習は珍しいねと感心して言われた。 (88)
- (2) 4週間も保育所実習するのだから、じっくり勉強なさいと言われた。 (29)
- (3) 4週間の保育所実習は1回生には無理ではないかと言われた。 (4)
- (4) 4週間の保育所実習なんて大学が面倒だからやっているのではないかと言われた。 (0)
- (5) 4週間の保育所実習なんて変わっているねといやみたらしく言われた。 (13)
- (6) 2週間に分けて保育所実習をやった方が勉強になっていいのにと言われた (2)

国際研究論叢

- (7) 特にはなにも言われなかった。(19)
- (8) その他 ( ) (8)
- 10 あなたが受けた「連続して4週間」の保育所実習をもし、途中の2週間で終了していたら、今ならどのように思いますか。当てはまるものすべてを次の中から回答してください。
- (1) 2回生になってやる2週間の保育所実習がもっと充実したものになっただろう。(26)
- (2) せっかく園児や保育所になれたのに、これからという時に終わりがっかりするだろう。(90)
- (3) あまり保育の実情をわからないうちに、終わっていたかもしれない。(62)
- (4) もっと余裕を持って実習できたかもしれない。(26)
- (5) その他 ( ) (0)
- 11-1 あなたがこれから保育所実習を受けるとしたら、「連続して4週間」の保育所実習と「2週間ずつに分割して4週間」の保育所実習のどちらを選びますか。次の中から1つ選んで回答してください。
- (1) 「連続して4週間」の実習を選ぶ。(62)
- (2) 「2週間ずつに分割して4週間」の実習を選ぶ。(31)
- (3) どちらでもいい。(20)
- (4) わからない。(5)
- (5) その他 ( ) (0)
- 11-2 【(1)を選んだ人のみ回答してください】選んだ理由として当てはまるものすべてを次の中から回答してください。
- (1) 「2週間ずつに分割して4週間」の実習では子どもや実習園にやっとなれて、これからという時に終わってしまうことの繰り返しになるので、「連続して4週間」じっくり実習した方がいい。(55)
- (2) なるべく早くから長く現場を経験した方が勉強になる。(14)
- (3) 4週間やりとおして自信がついた。(28)
- (4) なんとなくそう思う。(1)
- (5) その他 ( ) (3)
- 11-3 【(2)を選んだ人のみ回答してください】選んだ理由として当てはまるものすべてを次の中から回答してください。
- (1) 多くの大学が保育所実習を「2週間ずつに分割して4週間」で実施しているので、本学もそれに合わせてやった方がいい。(1)

本学の保育所実習の実施に関する実態調査（Ⅰ）

- (2) 1 回生時の保育所実習で気づいた課題を 2 回生時の保育所実習で取り組むことができる。 (19)
- (3) 1 回生ではまだあまり勉強していないので実習期間を長くするのはよくない (11)
- (4) なんとなくそう思う。 (0)
- (5) その他 ( ) (8)

12 2 回生後期に保育所実習を 2 週間実施することについて、あなたの意見をお聞かせください。

[ ]

13 あなたの卒業後の進路について、次の中から 1 つ回答してください。

- |            |      |                   |      |
|------------|------|-------------------|------|
| (1) 保育所    | (53) | (6) 一般企業          | (7)  |
| (2) 幼稚園    | (32) | (7) 大学・専門学校などへの進学 | (3)  |
| (3) 施設     | (0)  | (8) 就職活動中         | (15) |
| (4) 音楽教室   | (8)  | (9) 就職しない         | (4)  |
| (5) 社会体育施設 | (4)  | (10) その他 ( )      | (4)  |

\*\* ご協力ありがとうございました。心より感謝いたします \*\*